



ホンダ学園では年に一度、ホンダの役員によるトップセミナーを開催しています。今年度は本田技研工業(株)の社長、伊東孝紳さんにお越しいただき12月22日に開催されました。伊東さんはNSXで世界初のオールアルミノックポディを担当され、以降は数々の新車開発に携わった後、HRA副社長、鈴鹿製作所所長、四輪事業本部長などの仕事をを経て昨年6月に本田技研工業(株)の社長として就任されました。

セミナーでは地球規模で問題となっている環境問題を中心にHONDAの環境技術への取り組みの現状や今後の方向性などを紹介していただきました。伊東さんは直接のコミュニケーションを重視したいとのことから、質疑応答のコーナーを中心としたセミナーとなりました。多くの学生より関心事項や疑問点について質問があり、その一つ一つに丁寧にお答えをいただきました。

「スポーツカーが減ってきているが今後どのような方向性になるのか?」や「車の開発での効率アップについての方法」など開発の方向性についてや途上国で販売する車の話、電気自動車の可能性など先進技術に関するものが多く質問される中で「新聞記者みたいな質問をするね」と笑いながら答える場面もあり、和やかな雰囲気の中にも活気のあるトップセミナーとなりました。環境技術のこととはもちろん、質疑応答の中で伊東さんの人柄やHONDAの考え方を感ずることもありました。

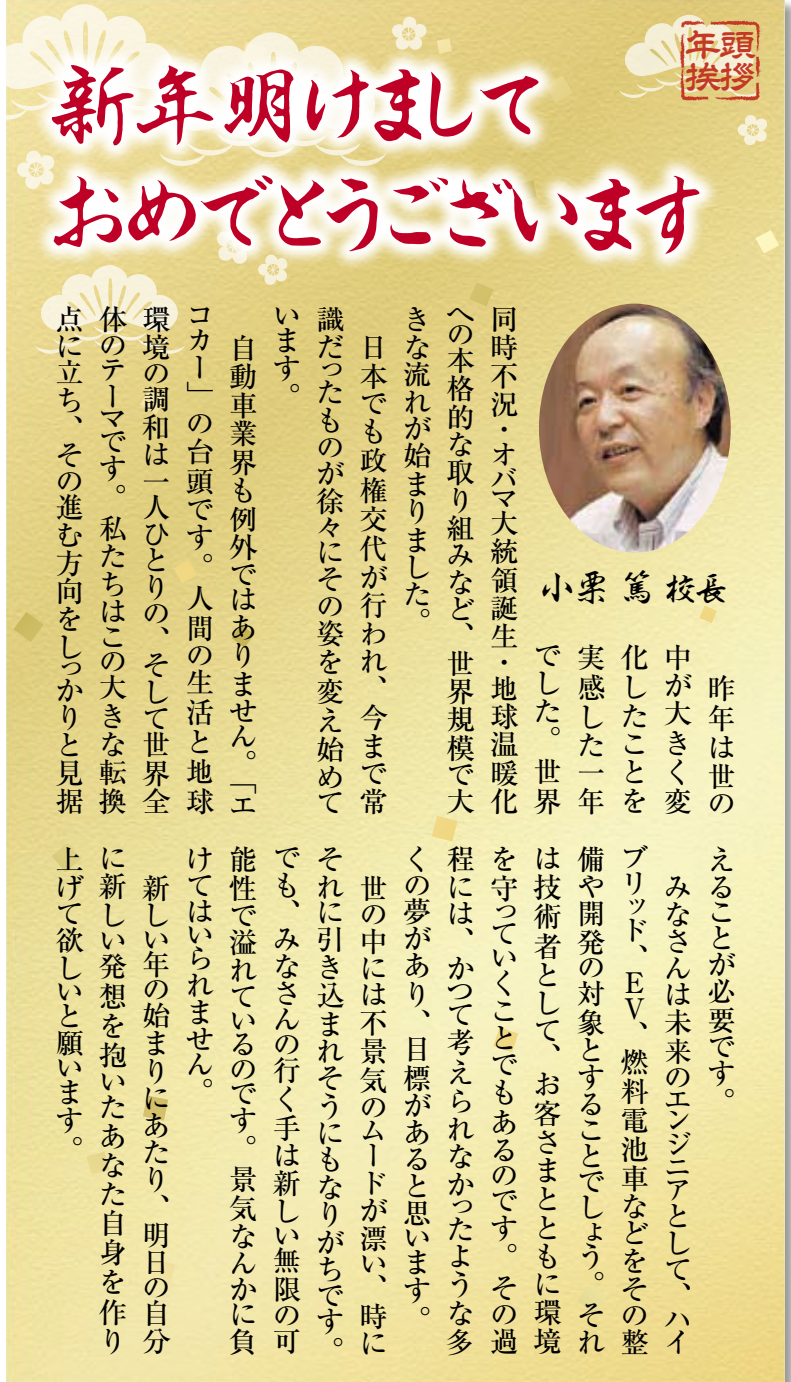
TOP SEMINAR トップセミナー

2009 12.22 本田技研工業(株) 伊東 孝紳 社長講話

この中で、学生の感想文を紹介します。

私は今回の伊東社長のお話を聞いて自動車業界の向かう方向について改めて考えるようになりました。トップセミナーでの社長の言葉どおり、これからの自動車は環境を前面に押し出した方向に行くと思います。開発分野ではハイブリッド車や電気自動車、燃料電池車(水素自動車)を普及させるように自動車会社の努力が必要とされるでしょう。一方で、メンテナンスに関しては課題も多く出てくると思います。特に整備に関して言えばインサイトやシビックハイブリッドなどが普及したことで、それらの車を扱える人も増えてきたと思います。しかし、燃料電池車や電気自動車などといった次世代車に関しては、一部の特化した技術を持つ整備士だけに任せるといふことにならないでしょうか? これからは既存の車も新しい時代の車もきちんと整備できてはじめて人前の整備士といえるかもしれません。これからの自動車業界がどういった方向へ行くとしても自分自身の鍛錬を怠ってはいけないということを感じました。(要約)

自動車整備科2年7組 氏家拓也



新年明けましておめでとうございます

昨年(2009年)は世の中が大きく変化しました。実感した一年でした。世界同時不況・オバマ大統領誕生・地球温暖化への本格的な取り組みなど、世界規模で大きな流れが始まりました。日本でも政権交代が行われ、今まで常識だったものが徐々にその姿を変え始めています。

自動車業界も例外ではありません。「エコカー」の台頭です。人間の生活と地球環境の調和は一人ひとりの、そして世界全体のテーマです。私たちはこの大きな転換点に立ち、その進む方向をしっかりと見据えていく必要があります。

みなさんは未来のエンジニアとして、ハイブリッド、EV、燃料電池車などをその整備や開発の対象とすることでしょうか。それは技術者として、お客さまとともに環境を守っていくことでもあるのです。その過程には、かつて考えられなかったような多くの夢があり、目標があると思います。世の中には不景気のムードが漂い、時にそれに引き込まれそうにもなりがちです。でも、みなさんの行く手は新しい無限の可能性で溢れているのです。景気なんかには負けてはいられません。

新しい年の始まりにあたり、明日の自分に新しい発想を抱いたあなた自身を作り上げて欲しいと願います。

海外・国内 研修旅行

10月後半～11月前半にかけて研修旅行が行われました。今年の研修旅行は海外4コースと国内1コースで行われ、海外コースには新たに一級自動車整備研究科3年生を対象としたラスベガスコースが追加されています。

すべてのコースにおいて研修の目的は、団体行動を通じてモラルや協調性を学ぶこと、海外コースではその国の市場やニーズの理解および文化に触れあうことで国際感覚を磨くことを目的としています。また、国内コースは大分国際マラソンをサポートするボランティアスタッフとして参加して健康者と障がい者が共存できる社会について考え、福祉への精神を啓蒙することが目的です。

各コース紹介

ロサンゼルスコース

アメリカンホンダの協力で社内での仕事の様子を見学、同じ敷地内の研究所も見学。アメリカでのHondaの事業についても説明があり、ここでアメリカにおける自動車ビジネスの違いを実際のデータや過去の事例から学びました。本田宗一郎さんが植えた樹もあり、記念撮影をする学生達も多く見受けられました。広い敷地内で昼食会や現地従業員とのコミュニケーションなども組みこまれています。

アメリカのカーディーラーへも訪問し、ここでも日本とは比べ物にならない大きさのお店を実際に見

て、整備工場の様子や説明を聞き自動車文化の違いを実感しました。あわせて歴史を学ぶ目的でカーミュージアムを見学。ビジネス以外でもアメリカならではのモビリティ文化を体験しました。観光ではディズニーランドやユニバーサルスタジオオモ選択コースとして楽しむことができました。



アメリカンホンダ玄関前で記念撮影

ラスベガスコース

アフターパーツや改造車などの世界最大展示会「SEMAショー」を見学。グランドキャニオンとフーバーダムの見学でアメリカの広大な自然とダム施設などから日本とのスケールの違いを実感。以降はロサンゼルスコースと合流しました。



グランドキャニオンの雄大さに大感激

ものづくりLAコース

このコースは走行テスト施設のHPCCとレースエンジンを開発しているHPDを見学。V8エンジンの部品を見てきました。とくに走行テストを実際に行っているコース上をバスに乗って走るといった通常では難しいことも体験でき学生達は満足。

アメリカ文化を学ぶカリキュラムはホストファミリーと一緒に行動してバーベキューやアメリカならではの遊びを楽しむ「アメリカンカルチャー」というミニホームステイが用意され、それぞれリクエストに応じていろいろなことを体験し、ホストファミリーとの絆も深まりました。



オハイオ・ニューヨークコース

このコースは自動車の製造現場とその部品を供給する会社を訪問しアメリカでの生産に関する知識を学ぶことが目的です。

Honda of America Manufacturing (HAM) はアメリカで四輪&二輪の生産を担う主力工場のひとつであり、Honda R&D Americas Inc. Ohio Center (HRA-O) は研究所として実際に製造するクルマの開発を行っています。

Transportation Research Center Inc. (TRC) は研究所隣接の車両試験場でテストコースや屋外衝突実験場をはじめさまざまなテストが行われています。



NEATON (日本ブラスト)、F-tech (エフテック) といった会社もあわせて見学してきました。これらの見学を通じて、ひとことでいわれている開発分野というものを設計～試作～テスト～部品調達～製造という一連の関係で理解することができます。また、アメリカ分野を学ぶ見学では国立アメリカ空軍博物館や大都会ニューヨーク市内見学やアイスホッケー観戦など盛りだくさんでした。

大分国際車いすマラソンコース

国内研修旅行では「福祉」をテーマに10月24日～25日に実施された「大分国際車いすマラソン」の大会ボランティアとして参加してきました。あわせて別府市にある社会福祉法人「太陽の家」も訪問しています。

世界最大規模の大会として国内外から注目される大分国際車いすマラソンは今年で29回目となります。フルマラソンとハーフマラソンが行われました。



この大会は、2000名を超える協力者やボランティア、企業からの協賛金、善意の寄付によって支えられています。他のボランティアの方々と協力し、大会準備や陸上競技場の整備、誘導などを行いました。この研修で得た貴重な経験を実社会において活かしてほしいと思います。

各部活動報告 part 2

今回は前号で掲載できなかったクラブや同好会を紹介いたします。新年そして1年生は進級という節目に新しく何かを始めたいという思いが強いのか、友達も活動範囲も拡がり新しい発見もあるかもしれません。

バドミントン部

毎週月曜と金曜を練習日として体育館で活動しています。現在、部員は7名です。東京都の専門学校バドミントン連盟に加盟しています。



自転車同好会

競技を中心にその練習をしたり、サイクリングをしたりしています。今のところ全員がマウンテンバイク(MTB)です。昨年はもてぎ4時間エンデューロに出場しました。



バレーボール部

定期練習は火曜日と木曜日に体育館で行っています。専各振(専門学校各種学校振興会)大会出場やふじみ野市の市民大会に出場をしています。



ダートトラック同好会

ダートトラックとは、硬く固めた土(ダート)のオーバルトラックをオートバイで周回する競技です。同好会は昨年4月に活動開始し、月1回のペースで活動中。主に研究科3年生が中心で昨年はツインリンクもてぎでのスクールに参加しました。普段は学校近くのダートコースで練習しています。車両はCRF100FかFTR223で、同好会は2台を保有しています。レギュレーションでフロントブレーキを取り外してあります。メンバーは毎月の練習会を通じて技量が向上しました。来年はレース参加を目指しています。



ジムカーナ部

練習は毎週水曜の放課後に校舎横のスペースを利用してポールを立ててセッティングしたコースで行っています。

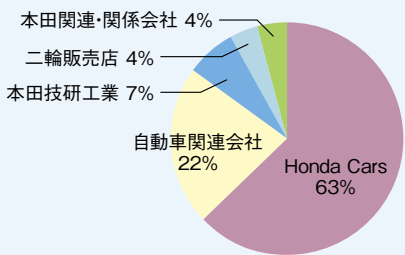


ミニバイク部

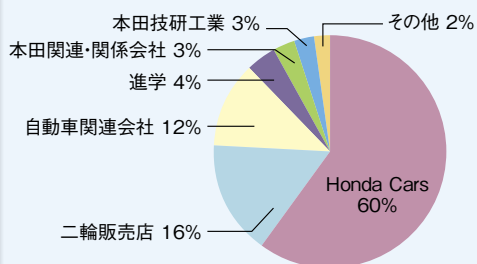
年間8回(予定)の練習走行会を桶川で行っています。普段は整備活動に励み、自ら整備したバイクをサーキットで走らせることの楽しさが感じられるようがんばっています。レースは年2回参加を目標にしています。



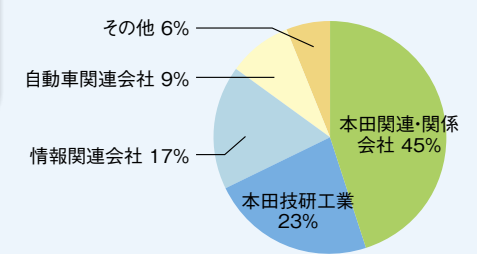
内定先分類



一級自動車整備研究科



自動車整備科



自動車開発エンジニア科

注:2010年1月22日現在 未内定者の数名を除く

いよいよ、就職活動も大詰めです。まだ決まっていな人はラストスパートでがんばりましょう。

企業研究会 & 接遇マナー研修

就職への意識づけのイベントとして、自動車整備科、自動車開発エンジニア科の1年生と一級自動車整備研究科は3年生を対象に後期のスタート時に企業研究会を開催して就職キックオフを行います。今年は9月30日に実施し、特に厳しい現在の就職状況などを理解した上で早めの就職活動をはじめようというように自動車業界動向や仕事のやりがい、就職活動時の心構えなどを説明しています。



仕事のやりがいなどを説明



整備以外の仕事も紹介されます

学園ではHondaグループの中で大切にしている3つの現主義を始める「ホンダの考え方」をいろいろな形で伝えていますが、それらをより具体的なイメージでとらえられるように企業研究会では職種や仕事内容の紹介をしています。



名刺交換のやり方を説明するインストラクター

編集後記

みなさんは新年をどのように迎えましたか? 学校は4月が新年度となるためになかなか、1月には気持ちの切り替えができないものです。しかし、年度の締めくくりを3月に控えてこれからはラストスパートになる大切な期間です。気持ちを入れ替えるきっかけとなるお正月が新学期の4月とは違う時期となる日本の学校制度はうまくできているなと感じています。悔いの残らない年度の締めくくりのために頑張りましょう。

着任しました



小太刀 俊夫

こんにちは。1月1日付で新機種センター(NMC)業務推進室サービスセンターより赴任いたしました小太刀です。和光、狭山、高根沢の各工場にエンジニアとフレームを中心に7人つくりの現場を経験してきました。その後、NMCで新機種導入業務を担当。同事業所のサービスセンターでの整備業務を経て、このたびはHonda学園に参りました。Hondaでの経験を活かして、学生のみならず将来に繋がる指導をして参りますので、よろしくお願い致します。



荒木 仁

1月1日付で浜松より赴任しました荒木です。Honda学園の関西校を卒業してから約12年、サービスの現場で仕事をしましたが、サービスセンターの発展的解消に伴いこちらに異動となりました。現場の経験から学んだことを、お教えできればと思っています。整備士から検査員になって数年の間に自動車整備も様変わりし、分からないことも多々ありますので、整備や車の構造について皆さんと共にもう一度勉強していきたいと思います。



西江 昌記

1月1日付で浜松サービスセンターより赴任しました西江です。Honda学園関西校を卒業し、車検点検整備を6年、板金修理を7年、ミッションの不具合解析を6年といった経験を積んで今日に至ります。今までの経験を活かして皆さんの役に立てるように、日々精進していきますので、気軽に声をかけていただき顔を覚えて下さい。よろしくお願致します。



山田 幸昌

皆さんこんにちは。学生部を担当します。山田幸昌です。11月1日付で本田技研工業(株)から異動してきました。本田技研では取引先との共同開発や品質管理、生産現場でのマネジメントを経験してきました。学生部の仕事は、皆さんの進路や就職でお話しすることが多いかと思えます。今までの経験を活かし、皆さんの役にたてるよう精進していきますので、今後ともよろしくお願致します。